

水の都ベイタウン

初期のベイタウンの開発計画では、花見川から水をひき、ベイタウンに運河を通そうという構想があった。図面までできていたが、一級河川である花見川は、国の管理となるため、この構想は夢と消えた。実現していれば駅まではバスならぬボートで、というのがあるが夢ではなかったろう(写真は合成)。



水がほしい〜っ

コンクリートジャングルの街ベイタウンには水がない。水のない街ベイタウンでは、夏の暑さは大変だ。少ない水を求めて、子どもたちはあちこち駆け回る。水と緑は近未来都市にも必要不可欠ではないか。そんなことを考えながらカメラ片手に水を求めてベイタウンを歩いてみた。

【松村】



【写真中】エコパークでの泥遊び、水もほしいが泥水もいい。泥遊びができるのは今のところここだけ。【写真左上】年に数度だけ現れるまぼろしの池。数年前にはこの池でメダカが繁殖していた。【写真左下】中庭に池を持つ番街は多いが、この11番街の池は特に人気がある。外部からの出入りが自由なこと、砂利を敷いた涼しい造りがいい。

【写真右上】海の街ベイタウンを満喫できるスポット「幕張の浜」。この浜も遊泳禁止となつて久しい。【写真右下】海浜打瀬小学校では恒例のプール開放が行われていた、ベイタウンの中では最も大量の水があるところだろう。

交換留学生がやってきた

去る7月4日から7月17日まで、千葉市の姉妹都市である米国テキサス州ヒューストンから、交換留学生（正式には、青少年交流事業派遣生）が打瀬中学校にやってきた。打瀬っ子たちと彼らとの活発な交流の様子をお伝えしよう。【板東】

交流の概要

千葉市とヒューストン市は、1972年に姉妹都市となり、青少年交流事業が始まったのは1983年のことだ。事業発足以来、毎年数名の中学生を交互に派遣しあい、これまでに50名の受け入れ、62名の派遣で、延べ112名の交流が図られてきた。2週間ほどのホームステイおよび学校での授業を通して国際理解を深め、両市の友好親善を深めることが目的だ。

今年は、ヒューストン市から、6名の生徒と1名の引率の先生の計7名が打瀬中学校にやってきた。引率のオーブリーさん（Ms. Aubrey Woolley）は、1997年から2000年までALT（Assistant Language Teacher）として千葉市に派遣されており、打瀬中でも教えたことがあるので、記憶にある打瀬中卒業生もいるのではないかと。7名は、打瀬中に通う生徒の家庭の中から選ばれた7つのホスト家庭にホームステイした。



▲派遣生一行。後列左はオーブリーさん

打瀬中にて

交流も終盤にさしかかった7月15日(月)、打瀬中に取材に行った。美術の授業では、絵手紙（『打瀬中の思い出』をテーマに、はがきに水彩画を描く）を作っていた。慣れない日本画用の筆にやや戸惑いながらも、思い切り良く色をのせていき、思い思いの作品を完成させた。最後に押印するための消しゴムで作る“ハンコ”がうまく彫れず、あきらめかけていたジェリー君（Jerry Eckles）のハンコを、打瀬中生徒が手を貸して作ってあげるといふ微笑ましい場面も見られた。

また英語の授業では、打瀬中生徒による、

留学生への英語での自己紹介が行われた。特に名前（漢字）を分解して、それぞれの文字の意味を英語で伝える場面では、「“行方”は“行”が“Go”で“方”は“Away”だから“Go Away”かな？」といった珍妙なやりとりも見られた。授業の最後には、二人のマイケル君（Michael Letko と Michael Plunkett）が、ヒューストンにある有名なNASAを、英語と絵でおもしろく紹介してくれた。



▲NASAのおみやげを配る両マイケル君

私の目から見て特徴的だったのは、6つに分かれていたグループそれぞれに、英語ができる子が大抵一人はいて、会話がスムーズに運んでいたことだ。別の日に打瀬小での交流を取材した松村記者によれば、小学校でもかなりの達人が見られたとのこと、さすが“国際都市幕張ベイタウン”と関心させられた。

英語を担当する北川先生によると、今回来訪した生徒たちは、多くの希望者の中から選ばれただけあって、皆日本のことを良く勉強していて、中にはカナを読める子もいて驚かされたらしい。また、歓迎会のときには、各自が全校生徒の前で歌やピアノ、ギター、ダンスなどのパフォーマンスを堂々と披露したことに感心したそうだ。全般に、“自立している”という印象を受けたとのことだ。

ホスト家庭にて

留学生のひとり、マーシーさん（Mercy Karpicke）の受け入れ家庭だったパーティオス12番街の葛春瑠さんのお宅にお邪魔した。

マーシーさんは、今まで日本には訪れたことがなかったが、お兄さんが日本語の勉強をしていたことから自分も興味を持ち始め、1年前からは空手も習っている。打瀬中の印象

は、皆フレンドリーで、かつ一生懸命勉強するということだ。幕張ベイタウンについては、ヒューストンの隣町のガルフストン（Galveston）と、海が近く、街並みも整っている点で良く似ているため、まったく違和感がなかったようだ。ただし、ヒューストンでは車が多く、歩いている人が少ないが、ここベイタウンではその逆という点では驚かされたらしい。

葛さん一家にとっても良く溶け込んでおり、「日本に来て何が一番楽しかった？」との問いに、「家族と一緒に。家族全員と“はとバス”ツアーに行ったのが楽しかった」と答えてくれた。

ホスト役の春瑠さんのご両親は、自分たちの仕事が忙しい上に、マーシーさんにも行事の予定がいっぱい入っていたため、なかなか構ってあげられなかったと心配していたが、彼女が「家族が一番」と言ってくれたのでとてもうれしかったそうだ。また、英会話の勉強になったし、思いかけず家族全員の英語力を把握することができたりと、ホストになって得るものが大きかったようだ。春瑠さんも、英語でのコミュニケーションには不安があったようだが、徐々に打ち解け、夜はベッドでおしゃべりしたり、トランプをしたりして過ごしたことが楽しかったとのこと。度数表示の違い（摂氏と華氏）から、せっかく一緒に作ったクッキーが真っ黒になってしまったという日米文化の違いを象徴する(?)エピソードも聞かせてもらった。



▲ホスト一家。ゆかた姿がマーシーさん（取材当日、春瑠さんのお姉さんは不在）

マーシーさんが、「打瀬中の生徒は廊下ですれ違おうと、誰でも『ハイ』と挨拶する。アメリカでは、知っている人しか挨拶しない。」と言っていた。単純に「打瀬中はフレンドリー」という話だけでなく、きっとそれは彼ら留学生が一目で“お客さん”であることが分かるからだろう。逆に、アメリカの学校で、例え日本人が歩いている、それが短期留学生なのか、その学校の生徒なのかは分からないのではないかと。何故なら、アメリカはそれだけ多くの人種が当たり前存在する多民族国家だからだ。また、「私が日本語を使おうとすると笑われる」とも言っていた。日本人は、やはりフレンドリーな気持ちを表現しようとしているのだろうが、相手は戸惑うこともある。こんなことを、生徒どうして本音で話し合えば、より深い国際交流、文化の相互理解ができるのではないかと、取材を終えて思った。



▲できあがった作品を持って皆で記念撮影

コア Core けいじばん

図書館より

さあ、いよいよ夏休みがやってまいりました。幕張ベイタウン・コアに美浜図書館打瀬分館が出来てはじめての夏です。みなさんは、この夏のように過ごされるのでしょうか？

図書館では、小学生や中学生のみなさんのために課題図書や自由研究の本、また、図書館のすすめる本として小さなお子さま向けの絵本や小・中学生向けの物語などを用意し、みなさんのご来館をお待ちしております。

打瀬の図書館にない本は、ほかの図書館から取り寄せることもできます。「〇〇についての本は？」とか、「こんな資料はありませんか？」など資料に関してのご要望等がありましたら、お手伝いいたしますのでぜひ、声をかけてください。

なお、図書館の本を借りるためには、利用の登録をしてからでないと借りることができません。まだ、図書館の「利用カード」をお持ちでない場合は登録をしてください。

利用登録の時は、住所の確認ができるものが必要です。小学生以下の方はできるだけ保護者の方が登録して下さる様お願いします。

移動図書館やほかの千葉市の図書館、公民館図書室で申し込まれて「利用カード」をお持ちの方は、全館共通ですのでそれをご利用ください。

美浜図書館打瀬分館 272-4646

公民館からのお願い

「ご不要になったおもちゃのご寄贈を」

10月以降、公民館の主催事業で、幼児とお母さんの講座を企画しております。1歳半から3歳くらいのお子さんの「おもちゃ」を公民館にご寄贈くださるようお願いいたします。勝手ながら汚れのひどいものやこわれたものはご遠慮ください。8月中（休館日を除く）午前10時から午後5時まで随時受け付け致します。

お問い合わせ 打瀬公民館 296-5100

コア・イベント情報

BAYSIDE JAZZ

大原保人トリオレクチャーコンサート

8/31 (土) 17:00 ~ 19:00

入場料：一般 2,000円 高校生以下 1,000円
プレイガイド・千葉市文化センター・千葉市若葉ホール・千葉市女性センター他にて発売中
主催：BAY SIDE JAZZ CHIBA 実行委員会
共催：ベイタウン中年バンド

9/1 (日) ワンコイン・コンサート*シニアのための楽しい音楽会

9/22 (日) 藤原真理チェロコンサート (第4回ベイタウンクラシック)

10/20 (日) ベイタウン音楽会

10/27 (日) 第2回ベイタウン寄席

出演：三遊亭大楽 (円橋門下)
入場料 1,000円 (予定)

11/24 (日) 第2回親と子のための音楽レストラン

12/15 (日) コンサート「サウンド・オブ・ミュージック」(出場者募集中)

寺子屋^{BT} 夏休みの予定

夏休み子ども相談室

夏休み自由研究、工作、その他なんでも相談できるよ。

場所：ベイタウンコア・アトリウム

日時：8/3 (土)、8/4 (日)、8/6 (火)
午前 9:00 ~ 12:00

寺子屋工作ランド

日時：8/17 (土) 午前 10:00 から

場所：ベイタウンコア 工芸室

1. 紙鉄砲のつづき、鉛筆けずり競争他
2. 紙コマづくり (はさみとノリをもってきてね)

参加費 (保険、材料費) 50円

只今発行中!!

ベイタウン・ジュニアタイムズ第2号

ジュニアタイムズ第2号は、ベイタウン・コアのアトリウムに置いてあります。ご自由にお持ちください。

しおかぜお話し会

毎月第2、4水曜日 打瀬公民館 講習室

子育てを終えたベテランお母さんたちのグループ、小さいお子さんを持つママたち気軽に聴きにきてください。もちろん無料です。参加自由。その日に来てちょっとのぞいてください。子どもたちにお話をするのが大好き人間の会。折り紙、紙芝居、読み聞かせ、年1回の人形劇もあります。

8/28 (水) 「夏休みおたのしみ会」

午後 2:30 ~ 3:00 (予定)

プログラム 絵本 読み聞かせ

紙芝居 かいじゅうたちのいるところ

人形劇 南の島のカメハメハ

わくわくお話し会

毎月第1、3土曜日 打瀬公民館 工芸室

9/7 (土) 午前 10:30 ~ 11:30

プログラム「おはなしおはなし」、
「そらいろのたね」他

9/21 (土) 午前 10:30 ~ 11:30

快挙!!

幕張ベイタウンテニスクラブ

千葉市民大会団体戦で昨年につづき好成績男子の部

幕張ベイタウンテニスクラブ男子1

Cブロック3位

佐藤 本多 福士 法月 新井 早野 木村 鈴木 君島

幕張ベイタウンテニスクラブ男子2

Dブロック1回戦

中島 岩泉 風見 角幡 勝山 木村 木場 迫田 羽貝

女子の部

幕張ベイタウンテニスクラブ女子1

Cブロック 優勝

長野 早野 法月 多田 勝山 新井 羽貝 神地

幕張ベイタウンテニスクラブ女子2

Dブロック 準優勝

辻 山北 稲葉 岩泉 木場 迫田 山本

夏祭り情報

7/13 (土) パティオス3番街

7/14 (日) パティオス21番街

7/19 (金) ベイタウン夏祭り (商店会・青少年育成委員会)

7/27 (土) パティオス10番街、12番街

8/1 (木) セントラルパーク、パティオス16番街

8/24 (土) パティオス2番街(8/25予備日)、5番街

8/31 (土) パティオス8番街

9/1 (日) 公園東の街

9/7 (土) パティオス4番街、11番街

(実施済みのものを含む)

連合会新体制スタート! 伊藤新会長に聞く

平成14年自治会連合会の活動がスタートしてから二か月になります。新会長の伊藤正昭さん(# 17) に伺いました。【浜田】「最初は、『まさか、自分が会長なんて』と思っていたのですが、昨年度、副会長を務めた実績から、前会長の須田さんの依頼で引き受けることになりました」



「新しい番街が増え、人口も増えたので、自治会を未結成な番街にもぜひ連合会に加入してほしいで

すね。特別に自治会を結成しなくても、管理組合のままで加入することもできます。自治会連合会が、本当の意味での“住民の代表”になるのが目標なので、皆さん加入してください。まずは自治会連合会のホームページ (<http://baytown.ne.jp/>) へアクセスしてください。活動など、よく理解していただけたと思います」

●平成14年自治会連合会役員

連合会長：伊藤正昭

副会長 (事務局担当)：小畑幸保

副会長 (交通関連担当)：福室敏行

副会長 (広報担当)：田村伸彦

副会長 (防災担当)：重松政人

副会長 (防犯担当)：米沢衆二

B

-

I

n

f

o

r

m

a

t

i

o

n

夏まつりの忘れ物

去る7/19(金)のベイトウン商店街主催の夏祭りで忘れ物が何点かありました。心当たりの方はパームツリー(パティオス5番街、TEL:213-1201)まで、ご連絡ください。

「コア・チェンバーシンガーズ」団員募集

ベイトウン・コアで活動する混声合唱団です。レパートリーはまだゼロですが、コアでのコンサート・イベントに出演すべく猛レッスン中。初心者歓迎です。

練習日：毎月第2, 4土曜日 18:00～(原則)

場所：幕張ベイトウン・コア 音楽ホール

問い合わせ先：松村(TEL:211-6853)

企業庁と連合会の定例ミーティング

幕張ベイトウン自治会連合会では、毎月千葉県企業庁との間で定例ミーティングを開催している。このミーティングはベイトウン在住であればどなたでもオブザーバとして出席が可能だ。7月は駐車禁止問題や街路樹問題など、ベイトウンの街作りに直結する問題について話し合われた。出席を希望される方は直接下記までおいでください。

次回予定

日時：8/12(月) 午後7:00より

場所：幕張新都心の幕張テクノガーデンD棟15階(県企業庁分室)

■仕事の関係で地域コミュニティについて考えることがある。「なぜ、地域でのコミュニティ活動が必要か?」ということになると、必ず「男性はリタイアしてから地域での活動が必要になるから」とか「女性は主婦だと必然的に地域で付き合うことになるから」とかいう答えが返ってくる。何か違うなと思う。ベイトウンでは「何かやりたい!」という一人の人の思いから始まり、それに賛同する人たちが集まるといったケースが多いようだ。仕事でもなく家事・育児でもない、ボランティアだけ「奉仕」ではない…自分のやる事が形になっていく手応えだろうか。

現在連載中の「WHO'S WHO」は、こうした人たちの普段聞けない「思い」を伝える貴重な機会になりつつある。「なぜ、地域でのコミュニティ活動が必要か?」の答えもここにあるのかもしれない。

佐藤則子(#3-310/T&F211-0090)

■小学校2年の長男は幼稚園に入る前、ベイトウンから磯辺の幼児教室に通ってました。なにがおもしろかったと聞いたら、「運動会をやった」との答え。そうかあ、やっぱりほかの連中とよにかやるのが子どもにとってはおもしろいんですね。「地域子育て支援センター」ができて、「居場所」と「情報」の提供体制は整いました。続いて、支援センターを楽しめる場・情報の集まる場にステップアップしていく仕掛けができていくといいですね。

茂木俊輔(#7-305/T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

■つい2週間程まえ、いつも通っている薬局の看板のツバメの巣から、なぜか、弱々しいヒナが逆さ吊りでぶら下がっていました。「この様子では、落ちるのではないか」と皆が心配する目の前でヒナは落下。ただし糞害防止の段ボールの中に落ちたので、無事で必死に足を突っ張り動いていました。上を見上げると他のツバメも親も知らん顔。丁度、脚立を持った看板掃除の人がいたので、皆で頼み、ヒナを巣に戻してもらいましたが…ある人の言葉、「きっと餌の取り合いで、兄弟に落とされたのね。他のヒナと比べても弱々しいから、また落とされるかも」。街の真ん中で見た、自然界の厳しさ、生存競争の激しさに胸の痛む夕刻でした。

浜田貴代子(公園東 atmark@pop01.odn.ne.jp)

■今回、打瀬中の交換留学生の取材を担当しました。わずか2週間とはいえ、打瀬中の担当の先生方、受け入れ家庭など、準備や対応にたいへんだったと思います。本当にご苦労さまでした。このような交流を通じて、一人でも多くの国際派が、ここベイトウンから巣立って行くことを祈っています。

板東司(#1-210/T&F211-0289/tbando@cp.u-netsurf.ne.jp)

■最近健康のためと称して自転車であちこち走っている。行き先は主に花見川のサイクリングロードを上って、そこから古い神社や森の見えそうなあたりを目指す。先日、「子安神社」という古い神社でどてつもなく古い巨木をみつけた。木の種類はわからないが、おそらく数百年、あるいは千年と言われても納得したかもしれない。樹齢〇〇年という数値以上の存在感でその巨木は立っていた。この他にも幕張や稲毛には謎めいた塚や、いわれのありそうな寺もある。当面自転車散歩の目標には事欠かない。

松村守康(#10-612/T&F211-6853/mmatz@m2.pbc.ne.jp)

都市公団からのお知らせ

水漏れ事故にご注意!!

上下重なり合っている集合住宅ではちょっとした水漏れでも思わぬ被害が及ぶことがあります。もし漏水させた場合には階下に迷惑をかけるだけでなく漏らした方も補修費や損害賠償の負担をしなければなりません。分厚く頑丈なコンクリートは一見水を通しそうにはありませんが、実は目に見えない細かい空隙が無数にありそこから水は浸透していきます。浴室以外で水をこぼしてしまったら階下の住宅に漏れているものと考えてください。

もし水漏れ事故をおこしてしまったら

- ① 水を雑巾などで吸い取り下階に漏らす分を最小限にする。
- ② 水道管破損の場合は、メーターボックス内の元栓を閉める。
- ③ 階下に知らせ被害にあいそうなものをすぐに動かしてもらおう。

一方、水が漏れてきたら

- ① ビニール等で家具を覆いすぐに上階に連絡する。
- ② 上階が不在で水道メーターが動いていたらすぐに元栓を閉めその旨連絡文をドアなどに貼る。

水漏れを起こさないための注意点は

- ① 床の水洗いは禁物。一般に玄関、便所、バルコニーは防水処理されていません。掃除する場合は雑巾やモップで行います。
- ② 自動洗濯機は水の使用量が多く家事の片手間に目を離して行うことが多いため万一のとき被害が大きくなりがちです。給水ホースの外れが原因になることもあるので使用しないときは蛇口を閉めておきます。
- ③ 排水管にはトイレトーパー以外の異物を流さない。詰まらせると異物を流した住戸の責任ですがわからないときはその共用管を使用する数戸の共同責任となりお互いのお付き合いにも支障が出てきかねません。

お互いが楽しく快適な暮らしを守るため水漏れ事故には注意しましょう。



賃貸住宅のお問い合わせは
総合募集センター津田沼案内所
TEL: 047-478-3711

公団住宅の駐車場のお問い合わせは
日本総合住生活(株)千葉支店

都市公団

「すみません。鎌田先生ではないですか？」

以前にもこのコーナーに出て頂いた4番街の鎌田さんは、6年前のペイタウンまつりでこう声を掛けられた。振り返って見たが、立っている長身の若い男性には見覚えがない。

「僕です。滝沢です。横浜の大和小学校で教えていただいた・・・」。鎌田さんが分からなかったのも無理もない、30年も昔の話だ。当時鎌田さんは横浜の小学校で校長をして

いた。滝沢さんはその小学校の4年生という関係だった。「担任の顔は覚えていないが、鎌田先生のことははっきり覚えている」そうだ。今はコアで行われる寺子屋工作ランドと一緒に子どもたちの工作指導をする。子どもたちの中には、小学生になる滝沢さんのお嬢さんもいる。

パティオス 21 番街に住む滝沢さんがペイタウンに来たのは7年前、ペイタウン第一期住民のひとりとしてパティオス 1 番街に入居した。大学で建築を学び、その後不動産開発の仕事で各地の街作りに関わった経験から、ペイタウンの開発には計画時から興味があった。第一期の1～6番街が販売されるとすぐに応募し、運良く1番街に当選した。お嬢さんが開校時の1年生として入学する打瀬小学校が部屋の窓から見るといことも気に入った。開校間もない打瀬小学校で何か子どもたちの役に立ちたいと思い、「地域交流特別クラブ」に講師として応募した。白いケント紙で建築物を忠実に再現する滝沢さんの講座は、今もこのクラブの老舗講座として子どもたちの人気を集めている。



●ペイタウンの子育て環境を考える

小さな子どもの“オアシス”になるか!?「子育て支援センター」を訪ねる

暑いっ！ ムンムン、カンカン。これじゃ、小さな子どもはもちろん、世話をやくお父さんやお母さんもツライ。

そんなとき、ペイタウン・コアのアトリウムで一枚のチラシを見かけた。「地域子育て支援センター『子育てひろば・うたせ』」とある。「子育て支援センター」？ そんなもん、どこにできたんだ？

見るとどうやら、4月にできた打瀬保育園の中らしい。「いつでも予約なしで親子で来て遊べる場所です」と書いてある。

だれでも気軽に遊べる公園は夏は日差しがキツイ。砂漠のようだ。ここは、小さな子どもやお父さん・お母さんの“オアシス”になるのだろうか——。さっそく訪ねてみた。

7月中旬、木曜の11時ちょっと前。防犯上の理由から閉め切っている門扉を自分で開けて保育園の中に。園庭をぬけて事務室のほうに向かう。支援センターは右手の一室だ。園庭との間を自由に行き来できるのがいい。

このとき来ていたのは、母子三組。胸に丸い名札を付けた子どもの姿も。連れてきている親同士が会話を交わすきっかけを提供するのがねらいだ。「○○くん、おいくつですか？」というように。

子どもたちの過ごし方は年齢に応じていろいろ。動き回れる歳になると、水遊びや

積み木をしたり園庭に出て遊具で遊んだり、と忙しい。絵本やビデオもあるから、好きな遊びを選んですべればいい。

共用施設としてマンション内に設けられるようになってきた「キッズルーム」によく似ている。違うのは、遊具のある外に出られるようになっている点や、保育のプロや同じ年頃の子どもがいつも近くにいる点だろうか。保育園の中にある強みでもある。

支援センターを運営する打瀬保育園によれば、オープンした4月から6月までの3か月間の利用者(子ども)は276人。一日平均3～4人の計算だ。年齢別にみると1、2歳児が中心で、全体の8割近くを占める。

「利用は午前中ですね。9時30分から10時くらいにかけて来て、昼ごろ帰っていきます。子どもを遊ばせながらちょっとした相談を、という感じです」。ベテラン保育士、高橋みえ子さんは言う。

支援センターはもともと、千葉市の子育て支援策の一つ。市内では三番目の施設だ。使わない手はない。【茂木

滝沢さんは、初期のコア研究会では、図書館研究会の会員だった。この会はコア研のなかでもきちんとした仕事を多く残したグループだった。コミュニティ・コアに作られる図書館を意欲的なものにしようと、首都圏各地の図書館を見て歩き、それぞれについてきちんとしたレポートを残す、といった具合だ。同じコア研メンバーとしてこのレポートを見たとき、外見だけでなく、しっかりと芯のあるものを求める文化がペイタウンにもあると知って驚いたことを思い出した。実際、滝沢さんにインタビューしていても、強く自己を主張するという感じはないが、知識量の多さと論理的な話し方には感服させられる。

その滝沢さんは、eメールのアドレスに“gauche”という言葉を使っている。「ゴージュ」と読む。てっきり『セロ弾きのゴージュ』のことかと聞いてみたが、ちがっていた。gaucheとは本来「左手」とか「不器用」の意味があり、自分も小手先の器用さではなく、“不器用と言われようと確かなものを”との思いから付けた名前だそうだ。下手だが実直で、最後には皆を驚かせたチェロ弾きの男に、宮沢賢治がゴージュという名前を付けていたことは、滝沢さんもちろん知っている。

今はチェロではなく、バイオリンを二人のお嬢さんに習わせる滝沢さん。この9月に行われる藤原真理のチェロコンサートは今から心待ちにしている。【松村】

地域子育て支援センター

▼どこにあるの？

打瀬保育園(打瀬小学校となり)内

▼利用できるのは？

平日9:00～16:00 / 土曜9:00～12:00
(日曜・祝祭日・年末年始は休み)

▼問い合わせは？

TEL273-6646 / FAX273-6648



【写真上】支援センターを訪れた子どもたちは外でも遊べる。ビニールプールで水遊びをする糸田亜佑ちゃん(2歳)と森田海翔くん(1歳11か月)。亜佑ちゃんはすでに何度か来ている“常連”だ。海翔くんははじめて。【写真下】室内は65m²ほど。事務机二つと棚やテレビくらいしかないのに、広々している。部屋の中にはちょこんと、小西里奈ちゃん(3歳)と晟也くん(6か月)。この日が2回目だ。

